

学校運営協議会委員

会長 山元 薫 (静岡大学准教授)
副会長 遠藤 久仁子(富士宮市社会福祉協議会 主幹)
杉浦 博(琴平区長)
関澤 真一(株式会社 大一セラム 代表取締役)
蓑 威頼(株式会社 アサギリ 代表取締役)
滝浪 香(令和4年度PTA 会長)
教職員 滝尾 彰彦(校長)
上村 一成(副校長)
小花 友梨(部主事)

校長あいさつ

地域の皆様のお力を借りて学校づくりを進めたい。

今年度の富士宮分校は、学部目標に『主体的に生きる』を掲げている。一人一人が自分のこととして、自分の意志をもち、生活していきたいと考えている。そのために、さまざまな提案をして頂き、卒業後の社会生活につなげていければよい。

・辞令伝達

1 令和4年度 学校経営計画について(副校長)

新たな時代に応じた取り組みを実践していきたいと考えている。

伝統である『誠実』『努力』『笑顔』の校訓は、とても大切にしている。

今年度、学部目標を変えた。『働く人をめざして』を変えて『主体的に社会で生きる』とした。

生徒の実態が多様化、進路も幅広くなった。『ワーク』と『ライフ』バランスを保つことが大切であると
考えている。

(1) 本年度の取組

ア 安心・安全で明るい学校生活を築き、生徒の豊かな心と健やかな体を育む。

安心・安全

・緊張感をもって、実践的な訓練をしていきたい。

道徳

・生活の中でいかされる道徳を目指したい。

自分や人を大切にする事、自己肯定感を高めることを意識していきたい。

豊かな心と体

・主体的に取り組む生徒会活動の充実、自治的能力を高めたい。

・『音楽』『美術』の授業充実、自己肯定感を高め、地域に発信していきたい。

イ 『主体的に社会で生きる人』を目指して、一人一人が成長・発達できる学びの充実を目指す。

個に応じて工夫を凝らした授業

・ICT を効果的に活用した授業実践、iPad18台/クロムブック20台の活用を進めたい。

ICT活用について、教員が教え合う風土になるといい。

キャリア発達を促す教育の充実

・キャリアパスポートの作成に力を入れている。自分を支えるもの、学校・家庭・労働との関わりの視点が大切。生徒が自分の歩みを創ることにつながるとよい。

ウ 共生・共育の充実を図り、家庭・地域とともにある学校づくりを推進する。

共生・共育、交流活動

- ・北高との体育祭、共同開催は3年ぶり、その中で分校は、集団演技を披露する。
- ・各学年が地域交流を実施しており、2年幼稚園交流、1年しらいと交流、3年らぼーと交流を実施予定。

特別支援教育のセンター的機能の充実

- ・小中高等学校への支援を充実させたい。

エ 専門性と指導力を高め合い、語り合ってチーム力を高め、迅速かつ効率的な業務を行う。

業務改善

- ・仕事の質を保ちながら、バランスをとりながら業務改善を進めていきたい。

(2) 令和4年度 富士宮分校構想図について

(3) 生徒の状況について

(4) 学部目標5G【自己コントロール、自己理解、自己表現、自主性、自己解決】、学年目標について

(5) 5Gを目指した取り組みについて

- ・学部集会を実施した。生徒自身が、5Gの言葉について自分なりに考えている姿が見られた。
- ・初めての生徒総会を実施した。生徒の力で実施した。実施するための準備が大切であることが分かった。

○学校経営計画の承認

○校内参観(40分程度)

2 校内参観感想・協議『主体的に社会で生きる』ことについて

委員 校内を参観して、新年度を作っていこうという気持ちが伝わった。

生徒がワクワクしている雰囲気、先生方も楽しむ気持ちや前向きさが伝わった。

委員 校内参観で、美術の授業を見て、生徒たちの感性の豊かさを感じた。

3年生の進路掲示物から、6月就職試験、9月最終試験、このように実習に向けての学習が進められていることが分かった。

学校では、就職することがゴールとなりがちだが、企業では、ここからスタートと考えてもらいたい。就職を決め、燃え尽きてしまっている生徒もいる。

『自主性』、とても大切なことだが、すごくハードルが高い。

社会に出た時、自分が社会の中でどうありたいかを考えることが必要なのではないか。

委員 校内参観で、生徒が元気、礼儀正しい、先生方の努力が反映されていると感じた。

『地域の一人として主体的に生きる』を学部目標にした富士宮分校の決断を感じる。

卒業生を見ていて、卒業＝就職、終着点になっているというのを感じる。

卒業後が本当のスタート、新たな一年が始まると考えてもらいたい。

委員 校内の美術作品を目にして、地域の大きなイベントで絵を見てもらえるといいと思う。今年度は、富士宮市政80周年を迎える。富士宮市と連携して展示させてもらったらどうか。

作業製品も使ってもらえるとよいのでは。

委員 参観はこれまで、作業が多く、教科の学習があまり伝わってこなかったが、国語の授業では、生徒のワークシートが分かりやすく先生方の丁寧な指導が行われていることが分かった。

生徒一人一人の理解に寄り添っている。休み時間に、友達との関わりが見られてよかった。高等部の生活が4年間あったらいいと思う。

委員 参観はこれまで、作業が多く、教科の学習があまり伝わってこなかったが、国語の授業では、生徒のワークシートが分かりやすく先生方の丁寧な指導が行われていることが分かった。

生徒一人一人の理解に寄り添っている。休み時間に、友達との関わりが見られてよかった。高等部の生活が4年間あったらいいと思う。

委員 参観はこれまで、作業が多く、教科の学習があまり伝わってこなかったが、国語の授業では、生徒のワークシートが分かりやすく先生方の丁寧な指導が行われていることが分かった。

生徒一人一人の理解に寄り添っている。休み時間に、友達との関わりが見られてよかった。高等部の生活が4年間あったらいいと思う。

委員 富士宮分校は、生徒・先生方が明るく、元気。伸び伸びしている。

『地域の一員として主体的に社会で生きる』ために、具体的にどう接続していくのかを考えることが大切。社会とつながるために学校をどう発信していくか。

社会や地域が学校を知るきっかけを作ることが大切。他県では、ツイート、フェイスブックなどやっている学校もある。生徒目線で、発信している学校もある。セキュリティの問題もあるが、リアルタイムでの発信は効果がある。

『主体性』、主体的に考え、一番いいことを判断して生きていくこと。しなやかに社会と接続できるために、どう生きていくか、自然な形で身に付けられるといい。

委員 これまで、参観は作業が多かった。就労ためのトレーニングというイメージもあった。高校生活では、心を耕してもらいたい。自立のために根を張るような授業、内面を育てる時間にしてもらいたい。

学校 作業学習だけではなく、教科学習も大切、心の耕しも大切であると考えている。すぐに役立つ教科学習という考え方から思考を育む授業に変わってきている。さらに、小・中との連携も大切であると感じている。

委員 学校は、限られた3年間であり、卒業後はずっと就労生活が続く。富士・富士宮地域は、卒業生を支えてくれるサポートが充実している。フォローしてくれる機関があることが大切。また保護者との関係がとても大切であると考えている。地域で働くということ、地域で生きることとは、やはり人とのつながりが大切であると考えている。さらに、目標をもつことも必要で、学校では『知る』ということが楽しいということだということも教えてほしい。好奇心を育てることに期待したい。

委員 『主体性』とは、会社に何人、そういう意識をもっている人がいるだろう？ほとんどいないのではないかと。今、会社で『自主性』につながるような取り組みをし始めたところ。何ができるだろうか、予想もできないが、メンバーを集めている最中。ある課題に対して自由にやらせる。悪い結果が出ても、失敗を責めたりしない。その時は原因分析をする。時間がかかって、芽が出てくるといいと思っている。種を蒔くことが大切であり、学校で蒔いた種が、企業で芽を出し、花を咲かせればよい。企業では、生徒をどうやって育てていくかが大切である。中・小企業の法定雇用率について、富士・富士宮は高いがまだまだ社会では低い。内面、心の部分の種蒔きが大切、『主体性』を目標に先駆けていくことはいいこと、向かっている方向性はよいと思う。

委員 静岡大学にも、発達障害、精神障害、70人の案件(申請している)がある。合理的配慮をしている。実際は270人近くの学生が障害を抱えている。

学校 静岡大学では、知的障害の方が環境整備などしている。雇用は進んでいる。学校生活では、一人一人の生徒がさまざまな場面で輝く場があればいい。自信をつけて頑張る場面があればいい。就職することがゴールにならないようにやっていきたい。

委員 ふらっと学校に行けるということが大切。学校がそのような存在になるといい。

学校 昨年度、8期生、卒業生の8割ぐらいが学校に来た。その中には、頑張っている報告をしに来た卒業生、悩みを相談しに来た卒業生もいた。やめたという報告ではなく、先生と話をすることで、折り合いをつけたり、関係機関に相談したりするきっかけになったりした。踏ん張っている姿が見られた。

学校では、本物に触れて感性を養うことも大切にしている。ヨガ、太鼓、卒業生の講話、性教育講座、地域のさまざまな立場の方から話を聞くことも大切にしている。

委員 教員視点からの発信ではなく、生徒目線からの発信が有効、今の社会のツールを利用することが必要。卒業生も参加できるなどの工夫も。目標がもてるようになる。リアルなツイート、リアルタイムの更新が可能。今の社会とのコミュニケーションとして考えていけるとよい。

- 学 校 新聞社への発信は積極的に行っている。特集を組んでもらっている。
SNSの問題、便利だけど危険もある。SNS利用に関して家庭との連携が大切だと感じている。
- 委 員 社会に出たらSNSは大切なツール。今、失敗することは大切。
委 員 地域では、地域の特徴から、震災に備えた行動が大切であると考えている。
防災対応について、などなかなか地域、北高との連携ができていないという課題もある。
避難所の人5つの区の割り振りなど、実際どうなるのか…。自分の身は自分で守るという考え方が大切。
- 学 校 富士宮分校でも、防災学習に力を入れている。
自分の住んでいる地区で北高の生徒と協力できるとよいと考えている。9月に北高と合同防災訓練を実施する。また、地域の方に話をしてもらう機会を設定したい。
- 委 員 応用は難しい生徒もいるので、いろいろなパターンを学んでもらいたい。発達障害は、見えにくい。理解が深まらず、心配している。
いろいろな部分で学校が発信できるといい。テレビやインスタでの発信などどうか。
ホームページは分かりにくい部分もあり、まめに更新してもらいたい。進路のことをもっと知りたい。
- 委 員 今後の学校発信に期待したい。